



LOVE
ЛЮБИМО УКРАЇНУ
虹の架橋

エゴール君が描いた両国旗

みどり市チャリティポロ
義援金はウクライナ避難者へ
東日本大震災以来、みどり市では毎年、チャリティポロシャツを販売、その代金の中から三百円を義援金として被災地へ送り続けてきました。今年は、ウクライナ侵攻で被害を受けた人たちへの支援



として使われることになりました。
みどり市役所の新採用職員が考えたデザインは、みどり市の掲げる5つのゼロ宣言をPRし、クリーン(きれいなみどり(自然))を守って、こうというのが目的です。
みどモスを囲む円の緑は自然災害による死者ゼロ、青は温室効果ガスの排出量ゼロ、黄色は災害時の停電ゼロ、ピンクはプラスチックごみゼロ、オレンジは食品ロスゼロをイメージして配色しました。また、袖の刺繍の「5 ZERO」は、常に5つのゼロ宣言を意識し、みどり市が一丸となって自然や環境を守る行動をとりましようという目標達成へのメッセージが込められています。
サイズはSから3L。色はネイビー、ターコイズブルー、ホワイト、バーガンディ、ライトピンク。税込千七百円の中に義援金三百円が含まれます。ご注文は足利屋へ！



三年ぶりの感動特集



いい話
(文責・靖)
《323》

小耳にはさんだ

三十年前からネパールで単身で支援活動をしているOKバジと垣見一雅さんが日本に帰国し、全国各地で支援者へのお礼の報告会を開いています。帰国直後に届いた垣見さんからのメールを読んだ、私たちが忘れていた大切なことに気づかせていただきました。

『去る五月十四日、三年ぶりに日本に帰ってきました。カトマンズからの直行便 B-433 が成田空港に着陸した時のドシンというショックが、今でも気持ちをワクワクさせてくれます。空港内では

コロナ関係の検査で三時間かかりましたが、無事に通過しました。今日は三年ぶりに帰ってきた感動特集をお送りいたします。

- あまり迷わずにSuicaのリチャージができて感動。
- 娘の所に着いて水道の蛇口から水が出、更にそれが飲めて感動。
- シャワーの水勢の強さに感動。さらに湯が出て大感動。
- 湯船に三年ぶりに浸かって天国気分が感動。(涙が出たことは内緒です)
- 洗濯を機械がやってくれて感動。
- 日本語で買い物ができて感動。
- 醤油味に感動。旨い。懐かしい。
- どの車も僕の頭と同じピカピカで感動。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館



今月の作品《323》
藤本信子さん『夏』

今から十六年前、東京へ嫁いでいる姉から「トイレ美術館に飾って」と、押絵をいただきました。作品の裏には『夏』というタイトルと『藤本信子』と作者名が書かれていました。藤本信子さんは、姉の高校時代の同級生でクラフト・イラストレーターとして活躍している人でした。毎年、夏になると、季節感あふれるこの作品を店内に飾っています。この作品を見ると、子供の頃、浴衣を着て、金魚のうんこのように姉のあとについて金魚すくいやヨーヨー釣りをした「お祇園」の情景が蘇ってきます。

●道にゴミが落ちてなくて感動。凄い！
●電車の punctuality (時間厳守) に感動。すごい国です。
●自分の母国がこんなに素晴らしい所だと改めて思い直し、嬉しさが伝わり、また感動。

でもネパールと違って少々悲しかったことは、子供の声が聞こえない。人の顔の表情が固い。笑い声が少ない。空が狭い。漲るエネルギーが感じられない。下向き老人が多い。(僕もかな?)
これから皆様の所にお邪魔



令和四年六月十六日(木)
大間々中学校の二年生を対象に「三方良しの町大間々」というテーマで講演をした。去年と同様に、職場体験の代わり、地域の大人たちから職業観や人生観を学ぼうという取り組み。三億年前は大間々が海の底で「コノドン」が生活していたことや、三億五千万年前は「みどモス」が住んでいたかもしれないという話から始まり、三億年前頃から大間々は「あなただよし、私さし世間よし」の「三方良し」の町だったことを話した。この中学生たちが三億年後、三方良しの実践者になってくれることを願った。

講演後に校長室で系井校長先生や大間々高校の南校長先生と歓談した。壁に歴代PTAの写真が飾られてあった。平成八、九年の本部役員仲間が「八、九(破竹)の会」と作り、二十五年も続親会を続けてきたがコロナで破竹の勢いも衰えた。二年後には、八千七十三歳になる。

今に効く親父の小言茄子の花
「親の小言となすびの花は千に一つの無駄もない」ということわざがあります。茄子の花を見ると、いつもこの言葉を思い出します。若い頃は、自分の方が正しいと錯覚して、父とは逆のことがばかりしていました。でも今は、ご飯粒を一粒も残さず食べることも、神棚や仏壇や稲荷様に毎朝手を合わせることも、父がやってきた通りのことをやっています。父が亡くなって今年で二十三回忌を迎えます。「親思う心にまさる親心」、自分が年を重ねれば重なるほど、父親の存在が大きく感じられるようになってきました。



虹の架橋 検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百二十四号は令和四年八月一日(月)発行予定です。

やっちゃんの似顔絵提供…ひさかさん